

弘前大学医学研究科 特別講演会

遺伝子から見える精神疾患の 脳内メカニズム

■ 日時

令和7年8月4日(月) 18時～19時

■ 会場

弘前大学大学院医学研究科

健康未来イノベーションセンター

(〒036-8562 弘前市在府町5)

■ 座長

石橋 恭之 教授

(弘前大学大学院医学研究科長)

■ 演者

廣井 昇 教授

(テキサス医科大学サンアントニオ校)



御略歴

早稲田大学文学部心理学専修卒業。
カナダMcGill大学心理学科博士課程でPh.D取得。

2011年Albert Einstein医科大学精神科神経科学科教授にご就任され、2019年現職にご就任された。

これまで利根川進博士やPaul Greengard博士らノーベル賞受賞者とともに研究に従事されてきた。

Cell, Science, Natureなど一流雑誌に研究成果を多数発表されている。

■ 講演概要

ヒト染色体22q11.2欠損重複は、知的障害・自閉スペクトラム症・統合失調症を高い頻度で引き起こす。

廣井教授の研究グループは、25年以上にわたりマウスモデル・細胞モデルを用いて、精神疾患に寄与する遺伝子の同定と、遺伝子変異の組織・細胞に及ぼす影響の解析を手掛けられてきた。

この研究から、22q11.2内にある転写因子TBX1の欠損が、Fimbriaのミエリン異常と扁桃体とその周辺皮質の縮小を齎し、Neonatal stem cellの増殖低下を通して、後の社会行動の発達に寄与することがわかってきた。本講演では、これらの最近のデータについて、議論していただく。

参加申し込みフォーム



■ 対象： 弘前大学全学部 学生・教職員

■ お問い合わせ

弘前大学神経精神医学講座 (TEL：0172-39-5066)